

西崎文子先生 業績一覧

その他のタイトル	The Academic Career of Prof. Fumiko Nishizaki
雑誌名	Odysseus : 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要
巻	24
ページ	147-157
発行年	2020-03-16
URL	http://hdl.handle.net/2261/00079449

西崎文子先生 業績一覧

著書・編著

- 『アメリカ外交とは何か 歴史の中の自画像』岩波書店，2004年。
- 『アメリカ冷戦政策と国連，1945—1950』東京大学出版会，1992年。
- 『戦後アメリカ外交史』（佐々木卓也編）第1,7章，有斐閣，第三版，2017年；初版，2002年。
- 『紛争・対立・暴力 世界の地域から考える』西崎文子・武内進一編，岩波ジュニア新書，2016年。

論文

- 「序論 「ウィルソン主義」の一〇〇年」『国際政治』第198号，2019年12月，pp. 1-14.
- 「オバマ大統領広島訪問の歴史的意味」『歴史学研究』No. 953，2017年1月，pp. 43-50.
- “Practicing American Studies in an ‘Age of Fracture’: In Search of a Context,” *Journal of the Center for American Studies*, Nanzan University, vol. 38, 2016, pp. 49-58.
- 「論争から読むアメリカ——最高裁と人種問題」東京大学教養学部編『高校生のための東大授業ライヴ』東京大学出版会，2015年，pp. 134-147.
- 「米国外交からみた集团的自衛権」奥平康弘・山口二郎編『集团的自衛権の何が問題か——解釈改憲批判』岩波書店，2014，pp. 237-249.
- 「ウッドロー・ウィルソンとメキシコ革命——『反米主義』の起源をめぐる一考察」『思想』第1064号，2012年12月，pp. 118-138.
- 「転換点に立つオバマ外交——戦争『終結』後の課題」『国際問題』第609号，2012年3月，pp. 26-35.
- 「モンロー・ドクトリンの系譜——『民主主義と安全』をめぐる一考察」『成蹊法学』第75号，2011年12月，pp. 1-15.
- 「『危機』と『変革』——FDRとニクソン」『成蹊法学』第72号，2010年6月，pp. 49-64.
- 「オバマ外交の9ヶ月——歴史的視点から」『アメリカ太平洋研究』第10号，2010年3月，pp. 7-15.
- 「第12章 ポスト冷戦とアメリカー『勝利』言説の中で——」紀平英作・油井大三郎編著『アメリカ研究の越境5 グローバリゼーションと帝国』ミネルヴァ書房，2006年11月，pp. 287-310.
- 「九・一一テロ事件と世界戦略の転換」アメリカ学会編『原典アメリカ史 第九巻 唯一の超大国』岩波書店，2006年12月，pp. 195-206.
- 「第一章 歴史的文脈——ウィルソン外交の伝統」五十嵐武士編『アメリカ外交と21世紀の世界——冷戦史の背景と地域的多様性をふまえて』昭和堂，2005年，pp. 3-31.
- “The Genealogy of American ‘Internationalism’: The Legacy of Wilsonian Diplomacy,” in Ruud Janssens and Rob Kroes, eds., *Post-Cold War Europe, Post-Cold War America*, Amsterdam: VU University Press, 2004, pp. 60-72.

- 「第16章 外交」五十嵐武士・油井大三郎編『アメリカ研究入門』第3版，東京大学出版会，2003年10月，pp. 213-225.
- “A Global Superpower or a Model of Democracy? Images of America in Post Cold-War Japan,” *The Japanese Journal of American Studies*, vol. 14, 2003, pp. 49-68; Takayuki Tatsumi, eds., *Trans-Pacific Cultural Studies*, 4 vols. (Sage, 2019), vol. 1 に再録.
- 「岐路に立つアメリカ」公共哲学ネットワーク編『地球的平和の公共哲学——「反テロ」世界戦争に抗して』東京大学出版会，2003年5月，pp. 77-88.
- 「アメリカ『国際主義』の系譜——ウィルソン外交の遺産——」『思想』第945号，2003年1月，pp. 172-189.
- 「ラディカルたちのスペイン内戦」大津留智恵子・大芝亮編『アメリカの語る民主主義』ミネルヴァ書房，2000年，pp. 39-67.
- 「アメリカのカトリックとスペイン内戦」『年報 政治学 2000 (日本政治学会)』岩波書店，2001年3月，pp. 59-77.
- “Between the ‘American Century’ and ‘Pax Americana’: The Ambivalent Legacies of the American Experience,” *Bulletin du CENA-EHESS* (Paris, March 2000), pp. 22-28.
- “Demarcating the Public and the Private in the Post-Cold War World,” in H. Abe, H. Sato and C. Otsuru, eds. *The Public and the Private in the United States*, JCAS Symposium Series 12 (The Japan Center for Area Studies, National Museum of Ethnology), Osaka, Japan, 1999, pp. 403-411.
- 「スペイン内戦とアメリカ」『東京大学アメリカン・スタディーズ (東京大学教養学部附属アメリカ研究資料センター研究年報)』第3号，1998年3月，pp. 29-45.
- “A Community of Dissenters: The Vietnam War, the Civil Rights Movement, and the Reconfiguration of Japanese Perceptions of the United States,”『成蹊法学』第45号，1997年3月，pp. 33-58.
- “The Construction of Peace and American Identity during the Spanish Civil War,”『成蹊法学』第42号，1996年3月，pp. 109-131.
- 「ヴェトナム戦争，黒人解放運動をめぐる日本の論調」『NIRA 研究報告書 アメリカ建国の理念と日米関係』1995年3月，pp. 133-148.
- 「ナショナル・ヒストリーとインターナショナル・ヒストリー 『冷戦論争』後のアメリカ外交史とナショナリズムの問題」『アメリカ史研究』第15号，1992年，pp. 22-28.
- 「世界人権宣言とアメリカ外交」有賀貞編『アメリカ外交と人権』国際問題研究所，1992年3月，pp. 39-65.
- 「モンロー・ドクトリンの普遍化——その試みと挫折——」『アメリカ研究』第20号，1986年3月，pp. 184-203.
- 「『利他的』モンロー・ドクトリンの誕生——20世紀初頭合衆国の西半球政策」『アメリカ史研究』第8号，1985年，pp. 39-48.

解説、報告書、エッセイなど

- 「同時代史としてのアメリカ研究——駒場との往還」東京大学教養学部編『東京大学駒場スタイル』東京大学出版会，2019年6月，pp. 136–141.
- 「アメリカと国際連合」，「世界における親米と反米」，アメリカ学会編『アメリカ文化事典』2018年，pp. 774–775，798–799.
- 『『民族自決の夢』を問い直せ』広井良典・大井浩一編『2100年へのパラダイム・シフト』作品社，2017年，pp. 65–67.
- 「ケナンの語る冷戦史」『ジョージ・ケナン回顧録』解説，中央公論社，2017年，vol. III，pp. 548–564.
- “Trans-Pacific Partnership: Open Markets or American Power? A Response to Kurt Tong,” *The Australasian Journal of American Studies* 34: 2, December 2015, pp. 22–24.
- 「特集『「渚にて」再訪——核，ハリウッド，オーストラリア』によせて」『アメリカ太平洋研究』16，2016年3月，pp. 5–6.
- 「論争する国，アメリカ」桐光学園中学校・高等学校編『高校生と考える世界とつながる生き方』左右社，2016年，pp. 302–318.
- 「ピース・デポ 第17回総会講演会抄録 日米関係と日本の核政策——歴史からの問い」『核兵器・核実験モニター』493，2016年4月1日，pp. 6–8；494，2016年4月15日，pp. 6–7；495，2016年5月1日，pp. 5–7.
- 「米国大統領選挙と歴史の問題」巻頭言，日本国際政治学会，JAIR Newsletter No. 147，2016年4月，p. 1.
- 「大統領の折り鶴の意味を考える」『淡青』33，2016年9月，p. 13.
- 国立国会図書館調査及び立法考査局『総合調査報告書：日米関係をめぐる動向と展望』コメント，2013年，pp. 50–52，58，63.
- 「日米関係 まやかしの対等性を超えて」『これからどうする——未来のつくり方』岩波書店，2013年，pp. 247–250.
- 「国際連合の成立(1945年)」歴史学研究会編『世界史史料11 20世紀の世界II 第二次世界大戦後 冷戦と開発』岩波書店，2012年，pp. 4–6.
- 「単独行動主義」「国際連合」荒このみ，岡田泰男他編『アメリカを知る事典 新版』平凡社 2012年4月，pp. 368–369，216–217.
- 「ウィルソン大統領と革新主義(20世紀初め)」「第一次世界大戦とアメリカ合衆国の中立(20世紀前半)」歴史学研究会編『世界史史料7 南北アメリカ 先住民の世界から19世紀まで』岩波書店，2008年，pp. 274–276，368–369.
- 「アメリカの対ドイツ宣戦布告」「ウィルソンの一四か条」「アメリカにおける国際連盟加盟論争」「ワシントン会議 海軍軍縮条約」「アメリカの中立法」，歴史学研究会編『世界史史料10 20世紀の世界I ふたつの世界』岩波書店，2006年，pp. 29–30，77–78，149–151，151–153，276–278.

- 「コメント『特集I 反米：その歴史と構造』『アメリカ太平洋研究』8, 2008年3月, pp. 45–48.
- 『新大陸』へのまなざし」巻頭文『アメリカ学会会報』2007年11月, p. 1.
- 「ポスト冷戦時代再考——『歴史の終焉』を信じる前に」『論座』2007年5月, pp. 44–53.
- 『歴史の教訓』とアメリカ』『図書』2006年7月, pp. 2–5.
- 「第7章 世紀転換期の米国」, 「第8章 革新主義と第一次世界大戦」『新訂 アメリカの歴史』油井大三郎編著, 放送大学出版会, 2004年3月, pp. 111–142.
- 『明白な運命』の終焉——さまよえるアメリカ外交』『世界』1998年4月, pp. 185–197.
- 「国連における大国と小国——歴史的考察——」『NIRA 政策研究 1993 国連シンポジウム——国際平和のための国連の役割』Vol. 6 No. 6, 1993, pp. 32–35.
- 「冷戦初期の国連と力による平和」『外交フォーラム』46, 1992年7月, pp. 26–33.

翻訳

- オリヴィエ・ザンズ『アメリカの世紀 それはいかにして創られたか』(有賀貞との共訳) 刀水書房, 2005年.
- アンソニー・アブラスター『ビバ・リベルタ! オペラの中の政治』(田中治男との共訳) 法政大学出版会, 2001年.
- アーネスト・ゲルナー著『民族とナショナリズム』(加藤節監訳) 岩波書店, 2000年.

書評

- 「書評 高田馨里『オープンスカイ・ディプロマシー アメリカ軍事民間航空外交 1938–1946年』(有志舎 2011)」『歴史学研究』No. 902, 2013年2月, pp. 58–61, 64.
- 「書評 高原秀介『ウィルソン外交と日本 理想と現実の間 1913–1921』(創文社 2006)」『アメリカ研究』第41号, 2007年3月, pp. 163–168.
- 「書評 油井大三郎・遠藤泰生編『浸透するアメリカ, 拒まれるアメリカ 世界史の中のアメリカニゼーション』(東京大学出版会 2003)」『論座』2003年11月, pp. 315–317.
- “Book Review: Olivier Zunz, *Why the American Century?* (University of Chicago Press, 1998),” 『アジア太平洋研究 (成蹊大学アジア太平洋研究センター)』第20号, 2000年7月, pp. 103–105.
- 「書評 滝田賢治『太平洋国家アメリカへの道 その歴史的形成過程』(有信堂高文社 1996)」『国際政治』120号, 1999年2月, pp. 255–256.
- 「書評 John Lewis Gaddis, *The United States and the End of the Cold War: Implications, Reconsiderations, Provocations* (Oxford University Press, 1992)」『国際政治』103号, 1993年5月, pp. 172–176.

新聞・雑誌等

- 『朝日新聞』書評 2018年4月～2020年3月
- 「ひもとく 米朝首脳会談」『朝日新聞』2018年6月23日.

「トランプのアメリカ」『教養学部報』595号, 2017年10月2日.

「ひもとく 首相の真珠湾訪問」『朝日新聞』2017年1月15日.

「この国はどこへ行こうとしているのか トランプという嵐」『毎日新聞』夕刊 2016年12月13日.

「識者座談会・米大統領選」『共同通信配信』2016年11月10日.

「今週の本棚・この三冊 米大統領選」『毎日新聞』2016年10月2日.

「論点 変容する日米関係」『毎日新聞』2016年7月6日.

「どう見る 米大統領広島訪問」『中国新聞』2016年5月20日.

「識者評論 米キューバ関係改善(下) 敵視政策問い直し オバマ政権の遺産」共同通信 2015年4月15日配信.

「歴史と語る 日米異なる利害 一体化危険」『北海道新聞』2015年8月26日朝刊.

「耕論 安倍談話 どう響いた」『朝日新聞』2015年8月15日朝刊.

「特集ワイド 続報真相 衆院選座談会 与党圧勝に潜む危うさ」(萱野稔人, 平野啓一郎との座談)『毎日新聞』夕刊 2014年12月19日.

「紛争と国家の行方7 『民族自決』の夢を問い直せ」『毎日新聞』2014年3月10日夕刊.

特集「核といのちを考える——『被爆体験』を原点に」『朝日新聞』2014年8月9日.

「近藤勝重の『世相を見る』——議論の作法」『毎日新聞』夕刊 2014年10月24日.

「米国史への招待」『教養学部報』558号, 2013年7月.

「識者座談会 オバマ大統領再選」共同通信 2012年11月8日配信.

「耕論: 軍拡スパイラルを止めよ」『朝日新聞』2011年1月28日.

「米中間選挙 識者座談会 『チェンジ』より景気」『毎日新聞』2010年11月5日.

「オバマ政権発足1年: 膨らむ期待と現実はずれ」共同通信 2010年1月15日配信.

「オバマ大統領に平和賞: 理念の外交へのエール」『朝日新聞』2009年10月10日.

「核廃絶への演説: オバマが解き放つ歴史感覚」『朝日新聞』2009年4月16日.

「イラク戦争と米国外交 『反省』にどう向き合うか」『信濃毎日』2006年5月12日.

「対米関係の落とし穴 徹底的に拘束される日本」『信濃毎日』2006年1月9日.

「米・ブッシュ政権に暗雲」『毎日新聞』2005年11月22日夕刊.

「警戒すべき政権の近似性」『信濃毎日』2005年9月15日.

「国際組織への米の考え方 『道義』に従属させる危険性」『信濃毎日』2005年5月10日.

「ブッシュ大統領就任演説 『自由の拡大』をどう聞いたか」『毎日新聞』2005年2月2日夕刊.

「2期目のブッシュ政権 自由な米国の思考停止状態」『東京新聞』2005年1月27日夕刊.

「世界が注視した米大統領選 統合めぐる対立反映」『朝日新聞』2004年11月4日夕刊.

「米大統領選 識者座談会 対テロか国際協調か」『毎日新聞』2004年9月9日.

「今週の『異議あり!』米中心のイラク復興」『毎日新聞』2003年9月4日, 夕刊.

「イラク開戦座談会・揺らぐ世界平和の秩序」『毎日新聞』2003年3月21日.

「イラク攻撃に傾く米国：民主主義の名の下の干渉」『毎日新聞』2003年3月3日。

“Unassailable America: An Impossible Dream,” *Asahi Herald*, February 11, 2003.

「米国戦略・絶対的安全保障は見果てぬ夢」『朝日新聞』2003年1月13日。

「イラク攻撃の正当性」『読売新聞』2002年9月2日。

「鼎談・米国アフガン爆撃座談会」『毎日新聞』2001年10月9日。

「米国は単独主義を脱したか」『朝日新聞』2001年10月7日。

対談・座談など

「トランプ米新政権と揺れる世界」（浅井基文，三浦一夫との鼎談）『季論 21』37，2017年夏，pp. 52–71.

「現実政治としてのポピュリズムと民主主義のゆくえ」（水島治郎，杉田敦，小川有美との座談）『生活経済政策』244号，2017年5月，pp. 3–17.

「対談 いま，日米関係を考える——新しいナショナリズム台頭の中で」（キャロル・グラックとの対談）『女性展望』2009年8月，pp. 4–9.

「座談会 平和と安全保障を考える」（上原公子，江尻美穂子との座談）『女性展望』2006年6月，pp. 5–10.

「対談 イラク占領統治の現実と自衛隊派遣」（酒井啓子との対談）『女性展望』2004年2月，pp. 5–9.

『『イラク後』の世界・アメリカ・日本』（宮田律・中西寛との鼎談）『論座』2003年9月，pp. 80–95.

「平和への検証 講和条約・日米安保 50周年に寄せて」（巻頭言）『女性展望』2001年9月，p. 1.

「討論 クリントン政権の外交と内政」（竹内行夫，田中明彦，五十嵐武士との討論）『国際問題』467号，1999年2月，pp. 2–20.

学会・研究会報告

“The End of ‘American Exceptionalism’ and the Future of Global Order,” 10th Anniversary of the Graduate School of Global Studies, “What is Global Studies? Pursuing Conviviality and Constructing New Civilizations,” 同志社大学，2019年11月30日。

パネリスト「デモクラシーと世界秩序」共通論題，日本国際政治学会 2017 年年次大会，神戸国際会議場，2017年10月28日。

「地域研究の視座と文脈——米国研究からの問い」第24回地域文化研究専攻主催公開シンポジウム「今，人文・社会科学に何ができるか？」東京大学駒場キャンパス，2016年6月25日。

“Practicing American Studies in an ‘Age of Fracture,’” Symposium for the 40th Anniversary of the Center for American Studies, Nanzan University “American Studies in Japan: Its History, Present Situation, and Future Course,” 南山大学，2016年7月2日。

“Hiroshima and Nagasaki: Survivors’ Stories” シンポジウム “The Individual in Global History,” Rutgers University, New Brunswick, 2015年4月17日。

- 「日本国憲法と日米関係の現在」講演会 北京大学国際関係学院 北京市 2014年3月28日。
- “A Story of ‘Self-Government,’: A Contested Legacy of Wilsonian Diplomacy,” Department of History, University of Virginia, 2014年9月5日。
- 「history と historiography のあいだ——『新外交』をめぐる考察」シンポジウム「第一次世界大戦とアメリカ」日本アメリカ史学会 第11回年次大会, 亜細亜大学, 2014年9月27日。
- 『『ニューカマー』としてのアメリカ合衆国——国際関係史の視点から』東京大学大学院総合文化研究科第21回公開シンポジウム「地域とニューカマー 対面・相剋・共生」東京大学駒場キャンパス, 2013年6月29日。
- 「オバマ外交と核軍縮」中・四国アメリカ学会第37回年次大会, 安田女子大学, 2009年11月28日。
- 「アメリカの事例——政策の転換と『ナショナル』な意識の変容」部会「国内政策転換の国際的波及」2009年度日本政治学会研究大会, 日本大学, 2009年10月12日。
- 基調報告「オバマと世界——歴史家からの視点」東京大学アメリカ太平洋地域研究センターシンポジウム「オバマと世界——何が変わったのか?」東京大学駒場キャンパス, 2009年10月3日。
- “Images of America in Contemporary Japan: A Historical Perspective,” in Symposium “American Studies at the Crossroads,” アメリカ学会第43回年次大会, 津田塾大学, 2009年6月6日。
- “A Global Superpower or a Model of Democracy? Images of America in Post-Cold War Japan,” International Colloquium, Allies and Clients: America’s ‘Special Relationships,’ David Bruce Centre for American Studies, University of Keele, United Kingdom, 2007年4月11–14日。
- “The Genealogy of American ‘Internationalism’: The Legacy of Wilsonian Diplomacy,” Session III, Wilsonianism in Thought and Action, The Fourth International Symposium of The Core Research Project: Rethinking of American Studies in Japan in a Global Age, “American Empire: Past and Present,” 東京グリーンパレス (四谷), 2005年3月12–13日。
- 「約束と現実の間——ウィルソン外交再考」公開シンポジウム「第一次大戦と世界」史学会第101回大会, 東京大学, 2003年11月8日。
- “Wilsonian Diplomacy at the Crossroads: Response to Tony Smith, ‘American Democracy Promotion Abroad and the War in Iraq,’” Kyoto American Studies Summer Seminar, July 24–26, 2003; printed in the *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar* (Center for American Studies, Ritsumeikan University, Kyoto, 2003), pp. 15–22.
- “The Genealogy of American ‘Internationalism’: The Legacy of Wilsonian Diplomacy,” Session I, International Relations, “Post Cold War Europe/Post Cold War America,” Conference of the Netherlands American Studies Association, Roosevelt Study Center, Middelburg, The Netherlands, 2003年6月4–6日。
- 「アメリカ外交へのアプローチ」部会A「日本のアメリカ研究の課題」アメリカ学会第37回年次大会, 神戸大学, 2003年6月1日。
- “Between the ‘American Century’ and ‘Pax Americana,’” in Session VI: Mutual Historical Vision of the U.S.

and Asia, the 34th International Seminar, American Studies Association of Korea, October 15–17, 1999, Chirisan, Korea. Published in “‘The American Century’: Looking Back and Beyond”, *Proceedings of the 34th International Seminar, American Studies Association of Korea*, pp. 187–195.

“Nationalisms Confront One Another: America and Japan in the Age of Pax Americana,” ‘Constructing Pacific Democracies: Japanese and American Perspectives on Nationalism and Citizenship,’ sponsored by the Center for Global Security and Democracy, Rutgers University, 1999年9月8日.

“Comment on Olivier Zunz’ *Why the American Century?*” in ‘The American Century: Models, Hopes, and Contradictions,’ Organization of American Historians, Toronto, Canada, 1999年4月22日.

「スペイン内戦期のアメリカ知識人のアイデンティティ模索」南山大学アメリカ研究センター20周年記念シンポジウム「歴史の中のアメリカ民主主義とその展望」南山大学, 1996年11月17日.

「アメリカ普遍主義の行方——『周辺』からの問いかけとアメリカの自己認識」部会A「ポスト冷戦のアメリカの国際的地位」アメリカ学会第30回年次大会, 東京大学, 1996年6月16日.

“The Construction of Peace and American Identity during the Spanish Civil War,” Conference on Social Change and International Affairs, Maison Suger, Paris, 1994年12月5–6日.

“The United States, the United Nations and the Cold War—the Vandenberg Resolution and America’s Effort to ‘Strengthen’ the UN,” 1991 Convention, Society for Historians of American Foreign Relations, George Washington University, 1991年6月19–22日.

「国連改革運動とヴァンダーバーグ決議——冷戦期アメリカと国連」アメリカ学会第25回年次大会, 南山大学, 1991年3月29日.

学会・研究会（コメント、司会）

総合司会・企画, 「危機を超えて 地域研究からの価値の創造」日本学術会議第一部地域研究委員会地域研究基盤強化分科会主催シンポジウム, 日本学術会議講堂, 2019年10月4日.

討論者, 特別ワークショップ「イラン革命から40年 何が変わり, 何が実現したか」千葉大学グローバル関係融合研究センター共催, 東京グリーンパレス, 2019年2月10日.

コメント, 自由論題 “The United States and the World in the Nuclear Age.” 日本アメリカ学会第52回年次大会, 北九州大学, 2018年6月2日.

Organizer and Chair, Australian National University – University of Tokyo Joint Research Seminar, “Questioning Methods, Theory, and Practice in History and Politics,” 東京大学駒場キャンパス, 2018年1月19日.

開催責任者・司会, シンポジウム「アメリカは今——歴史から政治へ」東京大学アメリカ太平洋地域研究センター創立50周年記念シンポジウム, 東京大学駒場キャンパス, 2017年11月12日.

パネリスト, “70 Year Postwar Symposium Series: Thinking Together about the World and Japan: Symposium 4, Looking to the Future of the World, Asia, and Japan,” 国際文化会館 岩崎小弥太記念ホール, 2016年3月8日.

- 総合司会・企画, 「地域研究の意義を考える」日本学術会議第一部地域研究委員会地域研究基盤整備分科会主催シンポジウム, 日本学術会議講堂, 2016年10月8日.
- 総合司会・企画, 「亀裂の走る世界の中で——地域研究からの問い」日本学術会議第一部地域研究委員会地域研究基盤整備分科会主催シンポジウム, 早稲田大学大隈小講堂, 2015年10月3日.
- 司会, Workshop, “Pacific Worlds: Empire, Environment, Embodiment,” 日本アメリカ学会第48回年次大会, 沖縄コンベンションセンター, 2014年6月8日.
- 司会・討論, 「アメリカの安全保障政策」日本政治学会2014年研究大会, 早稲田大学, 2014年10月11日.
- 司会, シンポジウム「それぞれの戦後——アメリカとベトナム」アメリカ太平洋地域研究センター, 東京大学駒場キャンパス, 2013年11月9日.
- 司会, シンポジウムC『『ベトナム』後のアメリカ社会と外交——インドシナ撤退40年』アメリカ史学会第10回年次大会, 立命館大学, 2013年9月22日.
- コメント, 「米国シンクタンク研究者シンポジウム: 米国の行方——10年後の米国の姿を占う」一般財団法人経済広報センター主催, 経団連会館, 2013年11月1日.
- 司会, シンポジウム「『米国衰退論』再考」アメリカ学会第46回年次大会, 名古屋大学東山キャンパス, 2012年6月2日.
- コメント, 「核の諸相」アメリカ史学会第7回年次大会, 東京女子大学, 2010年9月19日.
- コメント, 「ウェストファリア神話の終焉と21世紀世界秩序像のゆくえ」国際政治学会2009年度研究大会, 若手研究者・院生研究会コース, 神戸国際会議場, 2009年11月8日.
- 総合司会, 国際シンポジウム「デモクラシーとナショナリズム——アジアと欧米」成蹊大学法学部・成蹊大学アジア太平洋研究センター共催, 2009年3月22日.
- Chair, Plenary Session, Nagoya American Studies Summer Seminar, July 26, 2008, Nanzan University; Published as “Summary of Discussion,” Plenary Session, Professional Conference, *Nanzan Review of American Studies, Journal of the Center for American Studies, Nanzan University, Proceedings of the NASSS 2008*, vol. 30, 2008, pp. 7–12.
- Chair, Session III: American Empire in Historical and Comparative Perspectives, The Final International Symposium of The Core Research Project: Rethinking of American Studies in Japan in a Global Age, March 1–2, 2008, Tokyo Japan.
- コメント, 部会16「アジア太平洋における外交の諸相」国際政治学会2007年度研究大会, 福岡コンベンションセンター, 2007年10月28日.
- コメント, 「反米: その歴史と構造」東京大学アメリカ太平洋地域研究センター40周年記念シンポジウム, 東京大学駒場キャンパス, 2007年9月29日.
- Discussant, ‘Session 3: The Role of Intellectuals in Reconstituting the Human Community,’ International Seminar, Questioning from the Borderline: Cross Cultural Dialogue in Tackling a Global Agenda, 国際文化会館, 2006年7月22–21日.

Discussant, 'Session II: Cultural and Political Exchange Across the Pacific,' The Fortieth Annual Meeting of the Japanese Association for American Studies, International Symposium, "American Studies in Trans-Pacific Perspective," 南山大学, 2006年6月9日.

Panelist, concluding discussion, "New American Studies in Europe Today," The Fifth International Symposium of The Core Research Project: Rethinking of American Studies in Japan in a Global Age, Tokyo Japan, 2006年3月11日.

コメント, 日露通好条約150周年記念部会「グローバリゼーションとユニラテラリズム」国際政治学会2005年度研究大会, 札幌コンベンションセンター, 2005年11月20日.

Chair, Workshop B: Negotiating the National and International in the American Experiences, The 39th Annual Conference of the Japanese Association for American Studies, 京都大学, 2005年6月5日.

司会, 「アメリカの戦争・アメリカの平和」2002年度日本政治学会研究大会, 愛媛大学, 2002年10月6日.

Comment, 'Session II: The Nature of American Hegemony in International Politics,' Symposium, Americanization and Nationalism in a Global Age, organized by Hokkaido Association for American Studies, Sapporo, 2002年8月23日.

コメント, 「転換期のアメリカ」国際政治学会2001年度研究大会, かずさアーク木更津, 2001年5月20日.

コメント, 部会B「冷戦終結後の戦争とアメリカ」アメリカ学会第34回年次大会, 帝塚山大学, 2000年6月4日.

Comment, on Mariko D. Maeda, "Eleanor Lansing Dulles and the 'Good New Girls' Network." August 1, 1998, Ritsumeikan University, Published in the *Proceedings of the Kyoto American Studies Summer Seminar, July 30–August 1, 1998* (Center for American Studies, Ritsumeikan University, 1999), pp. 67–69.

その他の報告, 講演など

「混迷するアメリカ——歴史的視点から」willbe アカデミー2019, 東京大学本郷キャンパスダイワハウス石橋信夫記念ホール, 2019年8月31日.

パネリスト, 第二部「駒場スタイルの未来」東京大学教養学部創立70周年記念シンポジウム 学際知の俯瞰力」東京大学駒場Iキャンパス講堂, 2019年7月7日.

「『トランプ外交』とは何か——歴史からの問い」鳥根県立大学総合政策学会第35回特別講演会, 鳥根県立大学浜田キャンパス講堂, 2018年11月30日.

「歴史の中のアメリカ外交——『トランプ外交』の意味を考える」高校生と大学生のための金曜特別講座, 東京大学駒場キャンパス, 2018年4月27日.

「アメリカの『今』を考える——歴史の連続性・非連続性の観点から」グレーター東大塾, 東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター, 2018年4月18日.

「アメリカ社会を動かすもの——権力の表と裏」長野市民教養講座「歴史の表と裏 王道と霸道」

- 長野市，2018年3月2日。
- 「歴史の中のアメリカ外交——『トランプ外交』の意味を考える」成蹊大学法学会講演会，成蹊大学，2017年6月21日。
- 基調講演，シンポジウム「トランプの時代を考える——排外主義とどう戦うか」公益財団法人世界人権問題研究センター，2017年6月28日。
- 「歴史から読むアメリカの『今』」多摩大学寺島実郎監修リレー講座 第2回，多摩大学多摩キャンパス，2017年4月27日。
- 「アメリカにおける人種問題—隔離撤廃と政治的権利獲得への挑戦」交詢社歴史クラブ（世界史），交詢社ビル，2015年6月25日。
- 「論争から見るアメリカ」桐光学園（川崎市），2015年7月18日。
- 「アメリカ外交の伝統——モンロー・ドクトリンを手がかりに」交詢社歴史クラブ（世界史），交詢社ビル，2015年7月23日。
- 「貧困の発見と『アメリカの世紀』」長野市民教養講座，長野市，2014年9月12日。
- 国際シンポジウム「核兵器廃絶への道——原点を見つめ，『核の傘』を超える」朝日新聞社，長崎市，2014年8月2日。
- 「アメリカ外交を考える——理念と現実のはざままで」長野市民教養講座，長野市，2013年4月12日。
- パネリスト，国際政策セミナー「2012年アメリカ大統領選後の日米関係の展望——アジア太平洋地域における戦略環境の変化」国立国会図書館 調査および立法考査局主催，国立国会図書館東京本館，2013年2月15日。
- 「第二期オバマ政権とアジア——歴史的文脈から考える」公益社団法人日本経済研究センター，会員会社・部長昼食会，日本経済新聞社東京本社ビル，2013年1月15日。
- 記念講演「『ヒロシマ・ナガサキ』を原点として考える」日本原水爆被害者団体協議会結成55周年記念の集い，四谷プラザエフ，2011年10月18日。
- パネリスト「政治報道を考える～歴史的転換期にある政治とどう向き合うか」第62回新聞週間記念の集い，プレスセンターホール，2009年10月21日。
- 「オバマの『核のない世界』演説を読む～未来志向の歴史感覚」日本記者クラブ シリーズ研究会「オバマのアメリカ」，2009年6月15日。
- 特別公開講義「アメリカは世界に何をもたらすのか 第一回『過去から：アメリカ合衆国と世界——歴史的考察』」立命館大学大学院先端総合学術研究所，2004年12月9日。
- パネリスト 国連海洋法条約締結5周年記念シンポジウム「21世紀における海洋国家・日本の外交政策」外務省主催，2001年2月9日。